

1977年 春休み明けの帰仙

1977年4月6日(水)~7日(木)

【1977年4月6日(水)】

(1) 山陽本線(岡山~神戸)、東海道本線

1973年4月9日の春休み明けに松山から仙台へ帰る時は、岡山から東京まで新幹線に乗車しました。今回は基本的に同じルートですが、新幹線を利用しないで寝台特急を利用したケースです。新幹線を利用した場合と寝台列車を利用した場合の料金差がどの程度だったのか、当時の時刻表調べてみたところ次のとおりでした。

指定席の場合で比較すると、(寝台特急)瀬戸を利用すると13,780円、新幹線の場合は13,380円と400円しか差が無かったことがわかりました。

したがって、時間的に急ぐ場合は新幹線を利用し、東京で何か用事があった場合には寝台特急を利用していたのではないかと思います。

(寝台特急利用の場合)

項目	区間	料金	備考
乗車券	松山~仙台	6,180円	学割
特急券	松山~高松	600円	指定席
特急券	宇野~東京	2,400円	指定席
寝台料金	宇野~東京	3,000円	B寝台・上段
特急券	上野~仙台	1,600円	指定席
合計		13,780円	

(新幹線利用の場合)

項目	区間	料金	備考
乗車券	松山~仙台	6,180円	学割
特急券	松山~高松	600円	指定席
新幹線特急券	岡山~東京	5,000円	指定席
特急券	上野~仙台	1,600円	指定席
合計		13,380円	

寝台特急を利用する場合、松山を午後の特急「しおかぜ」で出発するのですが、この日は午後14時25分発の「しおかぜ2号」を利用していました。この列車の高松の到着時間

は17時12分ですので、宇野発の寝台特急の出発時間を考えると1本早い特急で松山を出発したようです。おそらく広島の大学を卒業した高校時代の友人が高松に就職し、この日の夕方に彼と高松で会ったような気がします。

高松を約2時間後の19時35分発の連絡船で宇野に20時35分に到着し、宇野を21時00分発の東京行き寝台特急「瀬戸」に乗車しました。当時、ブルートレインと呼ばれていた寝台特急の普通寝台（B寝台）は、上段、中段、下段の3段になっていました。上段は列車の屋根が丸くなっているため天井が少し高いことから、上段を好んで利用することが多かったと思います。

列車走行時の振動と駅を出発する時の連結器のガシャンという音を聞きながら知らぬ間に寝てしまい、気がつくと朝を迎えていました。寝台車の中では、狭いベッドにあぐらをかいて弁当を食べていたことを思い出します。

【1977年4月7日(木)】

(寝台特急)瀬戸は宇野を21時00分に出発し、翌朝7時25分に東京に到着します。その後、山手線か京浜東北線で上野に移動し、上野で駅弁を買って仙台行きのL特急「ひばり」で仙台に戻ります。この日は8時00分のひばり3号に乗り、仙台には11時59分に到着しました。今は、東北新幹線に乗ると仙台まで約1時間半で行くことができますが、この当時は4時間を切っていたことが画期的なことでした。

山陽・東海道線ダイヤ	
(寝台特急)	瀬戸
宇野	21:00
岡山	21:41
姫路	22:49
三ノ宮	↓
大阪	22:58
京都	↓
名古屋	↓
豊橋	↓
浜松	↓
静岡	4:51
沼津	↓
熱海	5:54
横浜	6:57
東京	7:25

(注)

このダイヤは、主要駅と(寝台特急)瀬戸の停車駅のみを記載しています。



<1977年4月7日>	
○上野	
8:00 発	
東北本線	
(特急)ひばり 2号 [仙台行] 3 時間 59 分	
11:59 着	
○仙台	



82.4.6